

自動詞と他動詞。

英語の動詞には「自動詞(intransitive verb. Viと略す)」と「他動詞(transitive verb. Vtと略す)」があります。他動詞とは「他者の助けがないと存在できない動詞」と覚えてもらいましょう。「他者」とは目的語のことで、**他動詞は直後に目的語になる名詞を置かないと、動詞として存在できません。**

○他動詞+目的語

①目的語について。

動詞というのは、『動作を表す言葉』のこと。たいてい動作には目的がある。その動作の目的・対象を表す言葉のことを目的語というのだ。例えば『ラーメンを食べる』と言えば、『食べる』という動作(行為)の目的は『ラーメン』だ。つまり『ラーメン』が『食べる』の目的語だ。『電気をつける』なら、『電気』が『つける』の目的語。『ドアを開める』なら『ドア』が『開める』の目的語だ。で、今の例の「ラーメン」「電気」「ドア」でもわかることだが、目的語になれるのは基本的に名詞(とその仲間)だけ。具体的には「名詞」「代名詞」「動名詞」「不定詞」「名詞節」など。

自動詞とは「自分だけで存在できる動詞」と覚えてもらいましょう。つまり直後に**目的語等を取らなくても存在できる動詞**のことです。

○自動詞+\_\_\_\_\_

○自動詞+C(名詞・形容詞等) ☞C、つまり補語として名詞を後ろに置くこ

○自動詞+副詞 とはある。

また自動詞は、前置詞のワンクッションを置けば、その後に目的語となる名詞をとることができます。

○自動詞+前置詞+名詞

ここで理解をより深めるために、「自動詞」と「他動詞」がとることができないパターンというのも整理しておきましょう。

- × 自動詞+目的語 ☞自動詞は前置詞の助けなしに目的語は取れない。
- × 他動詞+\_\_\_\_\_ ☞他動詞は逆に目的語なしで存在できない。
- × 自動詞+前置詞+\_\_\_\_\_ ☞自動詞は前置詞を後ろに置いたら、今度は必ずその後目的語になる名詞をとらなければならない。
- × 他動詞+前置詞+目的語 ☞他動詞は前置詞の助けなしで直接目的語を取る。

中学英語で「I go to school.」とは言えても「I go school.」とは言えませんでした。あるいは「I arrived at the station.」とは言えても「I arrived the station.」とは言えなかったはず。その理由がこれでわかります。つまり「go」も「arrive」も自動詞なので、直後に前置詞のワンクッションがなければ目

的語になる名詞をとることができなかつたのです。

《もう一歩深く！「自動詞と他動詞」》

自動詞と他動詞の違いを、意味の上からも少し深く考えてみましょう。

(意味の上から考えると)他動詞とは、「S(主語)の行為が直接・全面的にO(目的語=他者)に及ぶ」ということ。逆に自動詞とは「S(主語)の行為が自分(=主語自身)にとどまる(=他者にまで及ばない)」ということなのです。

これをまず search(捜す)という動詞で考えてみましょう。

search には search A という(他動詞の)語法と、search for A という(自動詞の語法)があります。

The police searched the house. [他動詞]

という場合、「(警察が)捜す」という行為が、「その家」にまで(直接的・全面的に)及んだということになります。したがって「警察はその家を家宅搜索した」という意味になるのです。

これが search for A を用いて

The police searched for the house. [自動詞]

と言う場合、for という前置詞に阻(はば)まれ、「捜す」という行為が「その家」にまで(直接的・全面的には)及んでいないことになるのです。そこで (for は「～に向かって」という方向・目的を表す前置詞なので)、「その家に向かって(を求めて)搜索を行った」、つまり「警察はその家を捜した」となるのです。

他の例を挙げると

① The policeman shot the criminal. [他動詞]

② The policeman shot at the criminal. [自動詞]

①の場合、「撃った(shot)」という行為が「その犯人」にまで(直接的・全面的に)及んだ。つまり「(銃であれば)弾が犯人に当たった」ことが予測できます。ところが②の場合、at(「～めがけて」という前置詞)が shot の後ろに割り込んでいるため、「犯人めがけて撃った」と言っているだけで、実際にその弾が当たったかどうかはわからないのです(当たっていないかもしれない。その後の文脈次第)。

「自動詞と間違えやすい他動詞」。「他動詞と間違えやすい自動詞」。

(1) 「自動詞と間違えやすい他動詞」

discuss の意味は「Aについて討論する」です。この日本語の意味から日本人はつい、「discuss about A」とやってしまいがちです。が、実は discuss は他動詞なので、about等という前置詞の助けは必要としません。「discuss A」というのが正しい形なのです(同じ意味でも、自動詞の talk を使えば「talk about A」が正しい形になる)。

この discuss に代表されるような、日本語感覚からついうっかり前置詞を入れてしまいやすい他動詞が英語にはあります。代表例を挙げてみましょう。

- ① discuss A 「Aについて討論する」 =talk about A
- ② accompany A 「Aについてゆく」 =go with A, follow A
- ③ marry A 「Aと結婚する」 =get married to A
- ④ attend A 「Aに出席する、通う」 =go to A
- ⑤ stand A 「Aに耐える」 =put up with A, endure A  
tolerate A
- ⑥ approach A 「Aに近づく」 =come to A
- ⑦ resemble A 「Aに似ている」 =take after A
- ⑧ enter A 「Aに入る」 =come into A
- ⑨ A(物) strike B(人) 「AがBの頭に思い浮かぶ」 =A(物) occur to B(人)
- ⑩ obey A 「Aに従う」 =yield to A
- ⑪ join A 「Aに参加する」 =take part in A, participate in A
- ⑫ await A 「Aを待つ」 =wait for A
- ⑬ contact A 「Aと接触する」 =get in touch with A
- ⑭ oppose A 「Aに反対する」 =object to A, be opposed to A
- ⑮ reach A 「Aに着く」 =arrive at A, get to A
- ⑯ excel A 「Aに勝る、上回る」 =be superior to A  
surpass[exceed] A
- ⑰ mention A 「Aについて話す」 =refer to A
- ⑱ inhabit A 「Aに住む」 =live in A

①-⑱の動詞の頭文字をつなげて「だまされそうじゃこれ見い」と覚えよう。

(2) 「他動詞と間違えやすい自動詞」

逆に、自動詞なので今度は前置詞の助けが必要なはずなのに、これまた日本語感覚からついうっかり前置詞を入れ忘れてしまいやすい、そんな自動詞があります。

これも代表例を挙げておきましょう。ぜひ前置詞とワンセットで覚えてください。

①graduate (from A)	「(Aを) 卒業する」
②account (for A)	「(Aについて) 説明する」
③quarrel (with A)	「(Aと) 口論する」
④respond (to A)	「(Aに) 反応する」
⑤reply (to A)	「(Aに) 返事を書く」
⑥insist (on A)	「(Aを) 主張する」
⑦persist (in A)	「(Aに) 固執する」
⑧hope (for A)	「(Aを) 希望する」
⑨dispense (with A)	「(A) なしで済ませる」
⑩dispose (of A)	「(Aを) 処理／処分する」
⑪agree (with/to A)	「(Aを) 同意する」
⑫major (in A)	「(Aを) 専攻する、専門に扱う」
⑬appeal (to A)	「(Aに) 訴える」
⑭start (from A)	「(Aを) 出発する」
⑮specialize (in A)	「(Aを) 専攻する、専門に扱う」
⑯interfere (with A)	「(Aを) 邪魔する」
⑰compete (with[against] A)	「(Aと) 競争する」
⑱complain (of[about] A)	「(Aの) 不満を言う」
⑲consent (to A)	「(Aに) 同意する」
⑳object (to A)	「(Aに) 反対する」
wait (for A)	「(Aを) 待つ」

①～⑳の動詞の頭文字をつなげて「**がっくりプーだましこわ**」と覚えよう。

### レクチャー3

5つの文型とそれぞれの文型によく使われる動詞。

英語には以下のような5つの文型がありますね。

5文型	{	(1) S + Vi
		(2) S + Vi + C
		(3) S + Vt + O
		(4) S + Vt + O <sub>1</sub> + O <sub>2</sub>
		(5) S + Vt + O + C

(1) (2) はO (目的語) がありません。つまり自動詞(Vi)によって構成される文型であるのに対し、(3)(4)(5)はO (目的語) がついている、すなわち他動詞(Vt)によって構成される文型です。

この5つの文型の中で、頻出の文型とその動詞のパターンをまとめてみましょう。

(1) 「SVC」を作る動詞。

①知覚動詞

1. 「Cのように見える」型…seem, look, appear, sound等

(ex) seem excited 興奮しているように見える

look tired 疲れているように見える

appear well 元気そうに見える

sound strange 奇妙に聞こえる

2. 「Cの味/臭い/感じがする」型…taste, smell, feel等

(ex) taste sweet 甘い味がする      feel happy 幸せに感じる

smell good いい香りがする

②状態や状態の継続、変化を表す動詞

1. 「C(の状態)である」型      [状態] …be, lie, sit等

(ex) be open 開いている

lie unused 使用されていない

sit brushing one's hair 髪をとかしながら座っている

2. 「Cのままている」型      [状態の継続] …keep, remain, stay等

(ex) keep silent 黙ったままている

remain unmarried (依然として) 独身のままである

[その他] stay, stand, continue, hold

3. 「Cになる」型      [状態の変化] …become, get, grow等

(ex) become a doctor 医者になる      go sour 腐る

get dark 暗くなる      turn red 赤くなる

grow tired 疲れる      run dry 干上がる

come true 実現する      make a good wife 良い妻になる

fall asleep 眠る

④make はCには「名詞」しか取らない。come は「good型の形容詞」、  
go は「bad型の形容詞」をCに取る。

③「Cだと判る」型

turn out [to be] C(形・名)

=prove [to be] C(形・名)

(ex) The story turned out to be true. その話は本当であることが判明した

#### ④慣用的なSVC構文。

1. The fact is that S+V~. 「実は~だ」「実際~だ」

=The truth is that S+V~.

=To tell the truth, S+V~.

=As a matter of fact, S+V~.

2. [The] Chances are that S+V~. 「たぶん~だ」

3. The problem is that S+V~. 「困ったことに~だ」

=The trouble is that S+V~.

4. The point is that S+V~. 「要するに~だ」

=To sum up, S+V~.

5. My guess is that S+V~. 「(私は)~だと思う」

6. The thing is that S+V~. 「重要なのは~だ」

「私が言いたいのは~だ」

◎これらの英文の that は省略されることがある。

(ex) The truth is, he arrived earlier. 実際には彼が早く到着した

#### (2) 「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」。

① 「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」を作る動詞のほとんどは「O<sub>1</sub>(人)」と「O<sub>2</sub>((物・事)」の語順を入れ換えることができます。その際、入れ代わった「O<sub>2</sub>」と「O<sub>1</sub>」の間に入る前置詞が動詞によって異なります。※ただしこれらについては、受験ではことさら問われることはないので、丸暗記はあえてしなくても大丈夫。

1. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇨ 「S+Vt+O<sub>2</sub> to O<sub>1</sub>」型

2. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇨ 「S+Vt+O<sub>2</sub> for O<sub>1</sub>」型

3. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇨ 「S+Vt+O<sub>2</sub> of O<sub>1</sub>」型

1. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇨ 「S+Vt+O<sub>2</sub> to O<sub>1</sub>」型

(ex) allot :「分配する」      lend      :「貸し与える」      send      :「郵送する」

allow :「与える」      pass      :「手渡す」      show      :「見せる」

award :「授与する」      pay      :「支払う」      teach      :「教える」

bring :「持ってくる」      promise :「約束する」      throw :「(視線・言葉等を)向ける」

give :「与える」      read      :「読んで聞かせる」      tell      :「話す」

grant :「与える」      recommend :「推薦する」      write :「(手紙などを)書く」

hand :「手渡す」      sell      :「売る」

(ex) I will give you the money. 君にその金をあげよう

=I will give the money to you.

## 2. 「S+V+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> for O<sub>1</sub>」型

(ex) bring :「持ってくる」    do :「与える」    order :「注文してやる」  
buy :「買う」    find :「見つけてやる」    prepare :「(料理等を)こしらえる」  
call :「呼ぶ」    get :「手に入れてやる」    spare :「分け与える」  
choose :「選んでやる」    leave :「残しておく」    stand :「(飲食物を)おごってやる」  
cook :「料理してやる」    make :「作ってやる」

① forを取る動詞の特徴は「～のために(…してあげる)」という「(他者への)利益」を感じさせるものが多い。

② bringとdoは前置詞をto、forどちらをとってもいい。

(ex) He bought his son a video game. 彼は息子にTVゲームを買った  
=He bought a video game for his son.

## 3. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> of O<sub>1</sub>」型

① このタイプは ask(尋ねる)のみ。

(ex) I will ask you a question. あなたに1つ質問があります  
=I will ask a question of you.

## ② 「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」で注意すべき動詞。

SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub> をとる動詞は基本的に「O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を与える」という意味になります。ただ例外的に「与える」という意味にならない(ならないように一見みえる)動詞もあります。

① 具体的には「AにBを与えない」「AからBを奪う・取り除く」型が多い。これらは少数ではあるが受験では頻出!

- ・deny A(人) B(物) :AにBを与えない(使わせない)    ・cost A(人) B(生命・仕事・犠牲):AからBを奪う
- ・spare A(人) B(苦労等):AにBを与えない    ・cost A(人) B(金額・費用):AからBを奪う(取る)
- ・save A(人) B(労力) :AからBを取り除く    ・take A(人) B(時間など) :AからBを奪う(取る)
- ・charge A(人) B(金) :AにBを請求する

spareには「AのためにBを割いてやる」という「与える」型の用法もあるので注意。

① Could you spare me a few minutes? 少し時間をとってくれませんか

② I will spare you trouble. あなたにご迷惑はかけません

①は「AにBを与える」型のspare。②は「AにBを与えない」型のspareの用例。

その他として「envy A(人) B(物事):AのBをうらやむ」「wish A(人) B(幸せ・挨拶):AのB(幸せ)を願う、AにB(挨拶)を言う」などがある。

では以下にその例を挙げてください (1.~3.、6.~8.は頻出)。

1.[cost A(人) B(金)] AにBかかる    cost - cost - cost

(ex) This camera cost me about 100,000 yen.

このカメラは10万円だった



2.[cost A(人) B(犠牲)] AにBの犠牲を強いる

(ex) Carelessness cost him his life.

不注意のために、彼は命を失った

3.[take A(人) B(時間)] AにBかかる

(ex) It took me 10 minutes to go there.

そこに行くのに10分かかった

⚠「かかる」という take、cost は「人」を主語にとらない。

4.[deny A(人) B(要求されたもの)] AにBを与えない

(ex) Mary denies her children nothing.

メアリーは子供たちに何でも与える

5.[envy A(人) B(物事)] AのBをうらやむ

(ex) I envy you your success. あなたの成功がうらやましい

6.[save A(人) B(時間・金・労力)] AのBを節約する

(ex) This new machine will save us a lot of time.

この新しい機械のおかげでかなり時間が節約できるだろう

7.[spare A(人) B(物事)] AのためにBを割く(とっておく)

(ex) Could you spare me a few minutes today?

今日少し時間をとってくださいませんか

8.[spare A(人) B(苦勞)] AにBをかけないように気を配る

(ex) I will spare you trouble. あなたにご迷惑はかけません

9.[charge A(人) B(金)] AにBを請求する

(ex) They charged him six dollars for the repair of his watch.

時計の修理代として彼は6ドル請求された

10. [wish A(人) B(幸せ・挨拶)] AのB(幸せなど)を願う

AにB(挨拶など)を言う

(ex) I wish you a Happy New Year. 新年おめでとう

I wish you many happy returns of the day. 誕生日おめでとう

She wished me (a) good night. 彼女は私におやすみなさいと言った

### (3) 「SVOC」の「C」のバリエーション。

5つの文型の中でも「SVOC」は、作文、解釈等で特に狙われやすい文型(構文)です。ですから「SVOC」に関しては、他の文型以上に細かな知識を持つておくことが大切です。その中でも特によく狙われるのが「SVOC」の「C」にどん



な品詞がくるのかという「C」のバリエーションです。一つ一つ詳しく見ていくことにしましょう。

まず「C」に「to do[原形]～」をとる代表的な動詞を挙げてみましょう。

(ex) want O to do～ 「Oに～してほしい」	cause O to do～ 「Oに(結果的に)～させる」
wish O to do～ 「Oに～してほしい」	lead O to do～ 「Oに～する気にさせる」
prefer O to do～ 「Oに～してほしい」	tempt O to do～ 「Oに～する気にさせる」
force O to do～ 「Oに(無理やり)～させる」	request O to do～ 「Oに～するよう要求する」
compel O to do～ 「Oに(無理やり)～させる」	require O to do～ 「Oに～するよう要求する」
oblige O to do～ 「Oに(無理やり)～させる」	induce O to do～ 「Oに～するよう勧める」
expect O to do～ 「Oが～するのを期待[予想]する」	urge O to do～ 「Oに～するよう勧める」
enable O to do～ 「Oが～できるようにする」	allow O to do～ 「Oに～するのを許可する」
get O to do～ 「Oに～させる」	permit O to do～ 「Oに～するのを許可する」
leave O to do～ 「Oに～させておく」	ask O to do～ 「Oに～するよう頼む」
tell O to do～ 「Oに～するよう命じる」	persuade O to do～ 「Oに～するよう説得する」
order O to do～ 「Oに～するよう命じる」	would like O to do～ 「Oに～してほしい」
set O to do～ 「Oに～させる」	advise O to do～ 「Oに～するよう忠告する」

④setはto do[原形]～以外に、doing～、形容詞等、前置詞句等もCにとることがある。

(ex) They set the machine going[in motion]

彼らは機械を作動させた

They set prisoners free. 彼らは捕虜を自由にした

I set my affairs in order 私は身辺を整理した

「C=to do[原形]～」以外の主要動詞の「C」のバリエーションは以下の通りです。

(1) **make+O+C** C=①名詞・形容詞・過去分詞 「OをCにする」  
 ②動詞の原形 「OにCさせる」 [強制]

(2) **let+O+C** C=①動詞の原形 「OにCさせる」 [許可]  
 ②形容詞・副詞・前置詞句 「OをC(の状態)にさせる」

④特に、②の例は珍しいので以下にあげてみた。

(ex) Let me in[out, through]. 中に入れて[外に出して、通らせて]ください

(副)

Don't let the dog loose. 犬を放してはいけません

(形)

(3) **have+O+C** C=①動詞の原形 「OにCさせる(してもらう)」  
 ②過去分詞 「OをCされる(してもらう)」  
 ③現在分詞 「OにCさせておく」  
 ④形容詞 「OをCにする」

(4) get+O+C C=①to不定詞 「OにCさせる(してもらう)」  
 ②過去分詞 「OをCされる(してもらう)」  
 ③現在分詞 「OにCさせておく」  
 ④形容詞 「OをCにする」

(5) help+O+C C=(to) do[原形] 「OがCするのを手伝う」  
 「OがCするのに役立つ(一役買う)」

會 Cのto不定詞は、to が省略され、「動詞の原形」になることも多い。  
 (ex) I helped him (to) do the job. 私は彼がその仕事をするのを手伝った

(6) keep[leave]+O+C C=①現在分詞 「OをC(の状態)のままにしておく」  
 ②過去分詞  
 ③名詞・形容詞

會 keepは「意図(識)的に～のままにしておく」、leaveは「無意識のうちに～のままにしておく」といったニュアンスの違いがある。  
 又、leaveの場合、「leave+O+(to) do[原形]～:Oに～させておく」という語法も(用例は多くないが)ある。

(7) find+O+C C=①現在分詞 「OがCだと思う(分かる)」  
 ②過去分詞  
 ③名詞・形容詞

會 「find O to be C(名・形・分)」という形でOの後ろに不定詞が続くことはある。

(8) need+O+C C=過去分詞 「OはCされる必要がある」

(9) want+O+C C=①to不定詞 「Oに～して欲しい」  
 ②現在分詞 「Oに～して欲しい」 ㊦否定文で主に用いる  
 ③過去分詞 「Oが～されることを望む」

(10) 知覚動詞+O+C C=①動詞の原形 「OがCするのを～する」  
 ②現在分詞 「OがCしているのを～する」  
 ③過去分詞 「OがCされるのを～する」

會 Cに「to do[原形]～」がくることはない。

(ex) I saw her go[×to go] there. 私は彼女がそこに行くのを見た

會 「知覚動詞+O+do[原形]～」と「知覚動詞+O+doing～」の意味的な違いは以下の通り。

① I saw him cross the road. 私は彼が道路を渡るのを見た

② I saw him crossing the road. 私は彼が道路を渡っているのを見た

違いは、「見ている中身」。do[原形]がO(目的語)の後に来る場合、「その行為のはじめから終わりまでを全部見る」ということになる。doing～

がO(目的語)の後に来た場合、「その行為を行っているその瞬間を見る」ということになる(つまりその行為の開始～終了するまでを見届けたわけではないということになる)。そうすると上の例文の①の場合、彼が道路を渡り始めてから渡り終わるまでの行為全てを見たことになり、②の場合は、道路を渡っているまさにその瞬間(のみ)を見たということになる。

會このような知覚動詞には以下のようなものがある。

see「見る」 feel「感じる」 watch「見る」 perceive「気付く」 hear「聞く」  
smell「臭う」 notice「気付く」 catch「目撃する」 imagine「想像する」

このうちsmell, catch, imagineは「C=現在分詞」。

①smell O doing~ : Oが~している臭いがする

(ex) I can smell the toast burning.

トーストが焦げているにおいがします

②catch O doing~ : Oが~しているのを目撃する

(ex) The police caught him (in the act of) stealing.

警察は彼を盗みの現行犯でとりおさえた

He was caught cheating in the exam.

彼は試験でカンニングをしているところを見つかった

※上例はcatch O doing~の受動態。

③imagine O doing~: Oが~しているのを想像する

(ex) Can you imagine him cooking for himself?

彼が自炊するなんて想像できますか

その理由は「においがわかる」「目撃する」「想像する」という動詞自体が、その瞬間の(その場面の)におい、行為、動作を対象としているから。一番わかりやすいのは「目撃する」。ある行為を目撃するというのは、まさにその瞬間の行為を"見る"ということ(に少なくともその焦点が置かれている)。smell, imagine にしても同じで imagine の場合、頭の中でものを想像するとき、まさにその動作・行為が行われている"瞬間の姿"を脳裏に浮かべるものだ。

### (11)その他

consider+O +(as/ to be)+C(名詞・形容詞・分詞): 「OをCとみなす」

drive+O+C(形容詞・分詞・to do[原形]~等) : 「OをCの状態に追いやる」

elect+O+C(名詞) : 「OをCに選出する」

paint [dye]+O+C(色を表わす名詞) : 「OをCに塗る[染める]」

discover+O+(to be)+C(名詞・形容詞・分詞) : 「OがCだと分かる(発見する)」

prove+O+(to be)+C(名詞・形容詞・分詞) : 「OがCだと証明する」

call+O+C(名詞・形容詞) : 「OをCと呼ぶ」

name+O+C (名詞) : 「OをCと名付ける」  
 render+O+C (名詞・形容詞) : 「OをCにする」 =make O C  
 ④renderには「render O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> :O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を与える」という語法もあるので注意。  
 (ex) Mr.Smith rendered him assistance.

スミス氏は彼を援助した

《SVOCをとる他動詞とそのCのバリエーションのまとめ》

Cのバリエーション	それをCに取ることのできる動詞
原形	使役動詞 (make, let, have) ・ 知覚動詞 ・ help ④動詞の原形をCにとるのは上記のみ。それだけこの5種類の動詞の語法はしっかりおさえておきたい。
形容詞	make・keep・leave・like・wish・paint・believe・think・find drive・have[使役]・get[使役]・set等
現在分詞	知覚動詞・have[使役]・get[使役]・keep・leave・find・want[否定文で]等
過去分詞	④全ての「SVOC構文」は、OとCの意味関係が受身(OはCされる)になる場合、Cには過去分詞が入る。

レクチャー4

語法を間違えやすい動詞。

(1) 「S+Vt+O(人)+that節」型の伝達動詞。

tell 「言う」 teach 「教える」 notify 「通知する」 remind 「注意する」 advise 「忠告する」  
warn 「警告する」 inform 「知らせる」 convince 「納得させる」 flatter 「お世辞を言う」  
assure 「保証する」 show 「示す、証明する」 instruct 「指図する」 persuade 「説得して～させる」

④特に下線の単語は頻出。この種の動詞はすべて「O(人)に～を伝える(知らせる・教える)」という意味になるのが特徴。

(2) 「人」を目的語に取ることができない伝達動詞。(「S+Vt+[to A(人)]+O」型)

explain 「説明する」 mention 「述べる」 remark 「述べる」 describe 「述べる」  
suggest 「提案する」 confess 「告白する」 admit 「認める」 express 「表明する」  
say 「言う」 propose 「提案する」 prove 「証明する」 announce 「公表する」

會特に下線の単語は頻出。それから、もしこれらの動詞の後ろに「人」を置きたい場合は、前置詞の to を用いて「to A(人)」という形にする。

(ex) He explained to me how he did it.

=He explained how he did it to me.

彼はどうやってそれをしたのかを私に説明してくれた

會「人」を目的語に取らない上記以外の頻出の動詞として、apologize がある。apologize の語法は以下の通り。

**apologize [to A(人)] for B(物):[Aに]Bのことで詫びる、謝る**

(ex) He apologized for his lateness. 彼は遅刻をわびた

I must apologize to you for not writing for so long.

長い間お便りしなかったことをあなたにおわびしなければなりません

(3) 「S+V+O+to do[原形]～」の型をとりそうでとれない他動詞。

C

hope「希望する」 suggest「提案する」 admit「認める」[admit O to be Cの形は有り得る]

demand「要求する」 propose「提案する」 insist「主張する」 assure「保証する」

會特に下線の単語は頻出。これらの動詞は [SVO] の形をとる

(ex) ×I hope you to succeed in the exam.

○I hope that you will succeed in the exam.

私はあなたが試験に合格することを望んでいます

(4)ask の語法。

①ask A(人) 

B(質問等)	「AにBを尋ねる」
if[whether] S+V～	「Aに～かどうか尋ねる」
疑問詞節(句)	「Aに○○を尋ねる」

(ex) I asked him the place of his birth. 私は彼に出身地を尋ねた

I asked her whether[if] she was happy.

私は彼女に幸せかどうか尋ねた

She asked him why he had not come.

彼女は彼になぜ来なかったのかと尋ねた

②ask A(人) for B(物) 「AにBを(くれと)求める」

(ex) He asked me for some money. 彼は私に金をくれと言った

③ask for A(物) 「Aを求める」

(ex) He asked for money. 彼は金をくれと言った

④ask A(人) to do[原形]～ 「Aに～するよう求める、頼む」

=ask that A(人)+[should]+do[原形]～

(ex) I asked him to wait. 私は彼に待ってくださいと言った  
=I asked that he (should) wait.

⑤ask A(人) B(望みの物等) 「AにBを求める」

=ask B(望みの物等) of A(人)

(ex) You are asking too much of me.

それは私には無理な注文 というものです

May I ask you a favor? 折り入ってお願いがあるのですが

=May I ask a favor of you?

### (5)hope の語法。

①hope to do[原形]～ 「～するのを望む[期待する]」

(ex) I hope to finish it by August. 8月までにそれを終えたい

②hope for A 「Aを望む(期待する)」

(ex) The boy is hoping for a present from his father.

少年は父親からの贈物を待ちかねている

③hope that A+will+do[原形]～ 「Aが～するのを望む[期待する]」

(ex) We're hoping that John will do the job for us.

我々はジョンが代わりにその仕事をしてくれるのを期待しています

④hope for A(人) to do[原形]～ 「Aが～するのを望む[期待する]」

(ex) I hope for John to come. ジョンが来ることを望んでいる

=I hope that John will come.

×I hope John to come.

Ⓢhope は「望ましいことの実現を希望する」。逆に「望ましくないことを思う・予期する」は be afraid を用いる。

Ⓢまた hope がとれない語法についてもしっかきおさえておきたい。

#### hope がとれない語法

× hope doing～	→ ○ hope to do[原形]～
× hope A	→ ○ hope for A
× hope A(人) to do[原形]～	→ ○ hope that A will do[原形]～ =hope for A to do[原形]～



(6)help の語法。

1. 「助ける(手伝う)」という helpの頻出語法。

①help A(人) 「Aを助ける」

(ex) We must help poor people. 困窮者を助けなければならない

②help (to) do[原形]～ 「～するのを手伝う」

「～するのに役立つ・一役買う」

☞主語が「物事」の場合、  
この訳がいいことが多い。

(ex) I helped (to) paint the house.

家のペンキ塗りを手伝った

③help A(人) (to) do[原形]～ 「Aが～するのを手伝う」

「Aが～するのに役立つ・一役買う」

☞主語が「物事」の場合、  
この訳がいいことが多い。

(ex) Help me (to) find my umbrella. 傘を探すのを手伝ってくれ

Magazine reading helps us (to) pass away the time.

雑誌を読んでいると時のたつのを忘れる(のに役立つ)

☞help の後ろの to は省略されることが多い。したがって「help+do[原形]～」

「help+C+do[原形]～」という形には慣れておきたい。

④help A(人) with B(仕事) 「AのBを手伝う」

(ex) He helped me with my homework. 彼は私の宿題を手伝ってくれた

2. 「避ける」というhelp。 ☞この意味の help は「人」を目的語にとらない。

①cannot help doing～ 「～せずにはいられない」

=cannot but do[原形]～

(ex) I could not help stating my opinion. 意見を述べずにはいられなかった

=I could not help but state my opinion.

②I cannot help it. 「仕方がない」

=It can't be helped.

☞itは上のように単独で使われる場合には、その場の(漠然とした)状況を指す。が以下のように(that節とセットで) it がthat節を指す仮目的語になっている英文もある。

(ex) I can't help it that he doesn't like me.

彼が私を嫌うのはどうしようもない



(7)suggest の語法。

①suggestは第3文型[SVO]をとる

(ex) × I suggested him to go there. ☞ suggestは、基本的に「SVO」しかとらない。  
S V O C

○ I suggested that he should go there.  
S V O

②人を目的語にとれない

× suggest O<sub>1</sub>(人) O<sub>2</sub>(物) ☞ suggest to A(人) O(物) なら可。このようにsuggest  
× suggest O(人) to do[原形]~ は「A(人)に(提案する)」という場合、A(人)の前にtoがある。

③動名詞(×不定詞)を目的語にとる

○ suggest doing~  
× suggest to do[原形]~

④that節を目的語にとると、that節内は「(should)+do[原形]~」になる

○ suggest that S+(should)+do[原形]~ ☞ shouldを省略することもできるが、その場合直後の動詞は  
「原形」の形にしておかなければならない。

(ex) I suggested that he (should) take a rest.  
彼に休息してはどうかと提案した

⑤ただし、④のような形になるのは「提案する」という意味の時だけで「ほのめかず、それとなく言う」という意味の場合は、that節が上記形になることはない

(ex) Are you suggesting that I am too young? 僕が若すぎると言うのですか

⑥A(物事) suggest oneself to B(人) : 「AがBの心に浮かぶ」

=A(物事) occur to B(人) =B(人) hit upon A(物事)  
=A(物事) strike B(人)

(ex) A good idea suggest itself to me. ある良い考えが僕の心に浮かんだ

(8)do の(意外な)語法。

① [willやshouldを伴って] 「間に合う」「役に立つ」「十分だ」 ☞このdoは自動詞。

(ex) That will do. それで結構です(十分です)

Any time before seven will do. 7時前ならいつでも結構です

②[do A(人) B(益・害など)] 「AにBを与える」 =do B to A

do A(人) good : Aのためになる(益になる) =do good to A(人)

(ex) This medicine will do you good soon.

この薬はあなたにすぐに益を与えるでしょう

→ この薬を飲めばすぐにあなたはよくなるでしょう

do A(人) harm[damage] : Aに害を与える(及ぼす) =do harm to A(人)

(ex) It'll do you no harm to drink a little whiskey.

少々のウイスキーを飲んでも害になりません

(9)4つの「言う」。speak, talk, say, tell。

④4つの「言う」の中で直後に「人」を目的語にとれるのは tell だけ。

例外的に talk A(人) となることもあります、その場合

talk A(人) into[out of] doing~

という形を必ずとるので見極めはつきやすいでしょう。では、具体的にではそれぞれの「言う」の特徴を見ていくことにしましょう。

①まず speak, talk は自動詞なので、前置詞の助けがなければ、後ろに目的語になる名詞はとりません。

×speak him

○speak to[with/about等] him:「彼に(と/について)話をする」

×talk him

○talk to[with/about等] him:「彼に(と/について)話をする」

speak が例外的に後ろに名詞をとることもありますが、それは以下のような決まった語句と共に使われる場合のみです。

speak English :英語を話す

speak words :言葉を発する

speak the truth:真実を言う

talk も、「人」を直後にとることがありますが、その場合以下のような決まった形で使われます。

talk A(人) into doing~ :Aを説得して~させる

talk A(人) out of doing~:Aを説得して~するのをやめさせる

②次に、say, tell は他動詞で、共に直後に目的語になる名詞を必要とするのですが、say は、「人」を目的語に取れないのに対して、逆に tell は「人」しか目的語に取れません。

○say [to A(人)] ○(言葉・話す内容)

×say ○(人) ☞左のようにsayは「人」を直接目的語に取れない。

○tell O<sub>1</sub> (人) O<sub>2</sub> (事):O<sub>1</sub> にO<sub>2</sub> について話す ☞左のようにtellは必ず「人」を目的語に必要とする。

○tell ○(人) about~:○に~について話す

(ex) He told me about the accident.

☞ He told me the accident. とはいわない。直接目的語(tell O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> のO<sub>2</sub>)になる名詞は、それ自体が話す[語る]内容を含んだものに限られる。以下のような言い方は可。

(ex) He told me the secret[the facts, the story, his name].  
彼はその秘密[事実・話・彼の名前]について話した

O tell O(人) that S+V~

O tell O(人) to do[原形]~

× tell that S+V~ ☞「言う」というtellがthat節のような「物事」だけを目的語にとることはない。

× tell to A(人) that S+V~ ☞「言う」というtellは「人」が目的語に必要。前置詞のtoなどは必要ない。

tell が「人」以外を目的語にとることもありますが、それは以下のような決まった形(表現)でのみです。

tell the truth: 真実を話す      tell a lie : ウソをつく

tell a story : 物語(話)を語る      tell a joke: 冗談を言う

それから tell には「区別する/分かる」という意味もあり、この意味では「人」以外も目的語に取れます。この tell は distinguish で言い換えられます。

can tell A(人・物): Aが(だと)わかる、識別する

tell A from B : AとBを区別する

tell the difference between A and B: AとBの違いがわかる

tell the time : 時刻がわかる

tell が「言う」なのか、「区別する/分かる」なのかの見極め方は以下の通り。

①「区別する/分かる」という tell は can(not)とセットで使うことが多い。

②「言う」という tell は「人」しか基本的に目的語にとれないが、「区別する/分かる」という tell は「人」「物(事)」どちらも目的語にとれる。

疑問詞節や that節、whether節を目的語にとることもある。

(ex) I can't tell why he did it. なぜ彼がそれをしたのか分からない

S            V                            O

(10)目的語にとる語句が限定されている他動詞。

①「参加する」

1.attend O(活動・会合・機関)

(ex) I attended the meeting. 私はその会合に参加(出席)した

2.participate in O(活動・会合・機関)

(ex) I participated in **an international convention**.

私は国際大会に参加した

3. **join** ○(人・人の集団) ☞joinは「人間」も目的語に取れる!

(ex) Won't you **join us** in a walk? (私達と)一緒に散歩しませんか

Tom wants to **join our Ski Club**.

トムは私達のスキー部に入りたがっている

## ②「勝つ」

1. **win** ○(試合・賞品) ☞win(勝つ)とlose(負ける)は、「人間・(試合の)相手等」を目的語に取れない点に注意せよ!

(ex) Oxford **won**[lost] **the match** to Cambridge by a score of 2-0.

オックスフォードはケンブリッジに2対0でその試合に勝った[負けた]

They are training hard to **win the race**.

彼らは競走に勝つために懸命に練習している

He **won the first prize** in the game. 彼は競技で1等賞を獲得した

2. **defeat** ○(対戦相手)

(ex) They **defeated**[×won] **our team** by 2-0.

彼らは2対0で我がチームに勝った

He **defeated**[×won] **his opponent** at tennis.

彼はテニスで相手を破った

3. **beat** ○(対戦相手) =defeat

(ex) I **beat**[×won] **him** at golf. 彼をゴルフで負かした

## ③「盗む(steal)」と「奪う(rob)」

1. **steal** A(物) from B(人・場所) 「BからAを盗む」

(ex) He **stole** the purse from the old lady. ☞活用は steal - stole - stolen

彼は老婦人からハンドバッグを盗んだ

2. **rob**[deprive] A(人・場所) of B(物) 「AからBを奪う」

(ex) He **robbed** the old lady of her purse. ☞活用は rob - robbed - robbed

彼は老婦人からハンドバッグを奪った

## ④「感謝する」。appreciate と thank。

1. appreciateは「物」しか目的語にとれない。

(ex) ○ I **appreciate your kindness**. ☞appreciate は「物」しか目的語にとれない。

× I **appreciate you** for your kindness.

2. thankは「人」しか目的語にとれない。

(ex) ○ **Thank you** for your kindness. ☞thank は「人」しか目的語にとれない

× Thank your kindness.

thank A(人) for B(物事):BのことでAに感謝する

☞thank は、thankful と形容詞になった場合も(toの後ろの)Aには「人」がくる。

「be thankful[obliged/ grateful] to A for B:B(物事)についてA(人)に感謝している」という語法になる。

(ex) I am thankful[obliged] to you for your kindness.

ご親切ありがたく存じます

☞appreciate については以下の語法も頻出。非常に丁寧な依頼を表す表現。

I would appreciate it if you could[would]+do[原形]~

~していただければ幸いです

※it は if 節の内容を受ける。この it の省略は不可。

(ex) I would appreciate it if you could[would] agree to my plan.

私の計画にご承認をいただければ幸いです

## レクチャー5

意味や活用などが紛らわしい動詞。

(1)活用の一部が同じなため、間違えやすいもの。

①fall-fell -fallen : 「倒れる」 [自]

fell-felled-felled : 「倒す」 [他]

②lie-lay -lain-lying : 「横たわる」「ある(いる)」 [自] =lay oneself

lay-laid-laid-laying: 「横たえる」「(卵を)生む」 [他]+O(名)

lie-lied-lied-lying : 「嘘をつく」 [自]

☞layだけが他動詞で、直後に目的語になれる名詞をとるのがポイント。「ウツをつく」というlieは「lie to A(人):Aにウツをつく」という形で使われることが多い。

③find -found -found : 「見つける」「わかる」

found-founded-founded : 「創設する」

cf; fine -fined -fined : 「罰金を科す」

④see-saw -seen : 「見る」「わかる」

saw-sawed-sawed : 「のこぎりでひく」

⑤wind -wound -wound : 「巻く」 ☞wound の発音は「ワウンド」

wound-wounded-wounded : 「傷つける」 ☞wound(ed)の発音は「ウーンド(イド)」

⑥bind -bound -bound : 「縛る」「束ねる」「束縛する」  
「(精神的に)団結させる」

bound-bounded-bounded : 「跳ねる」

cf; be bound(形) to do[原形]~:

①「必ず~するだろう」=be sure to do[原形]~

(ex) It's bound to rain. きっと雨が降るだろう

②「~すべきだ」「~する義務がある」=should

(ex) I am in duty bound to see this thing through.

私は義務上この事をやり通さなければならない

③「~する決心だ」

(ex) I'm bound to go whatever you say.

あなたが何と言おうと私は行くことに決めています

be bound(形) for A : A(場所)行きである

(ex) The plane is bound for Paris. その飛行機はパリ行きだ

(2)形が似た動詞と活用を混同しやすいもの。

①fly -flew -flown : 「飛ぶ」  
flow -flowed -flowed : 「流れる」  
frown-frowned-frowned : 「まゆをしかめる」

②welcome -welcomed-welcomed : 「歓迎する」  
overcome-overcame-overcome : 「克服する」

③rise -rose -risen : 「上がる」「昇る」 [自]  
raise -raised -raised : 「上げる」「育てる」 [他]  
arise -arose -arisen : 「生じる」「起こる」 [自]  
arouse-aroused-aroused : 「刺激する」 [他]  
rouse -roused -roused : 「元気づける」 [他]

④see-saw -seen : 「見える」  
saw-sawed-sawed : 「のこぎりでひく」  
sew-sewed-sewed : 「縫う」  
sow-sowed-sowed : 「種をまく」

(3)意味によって活用が違うもの。

①fly-flew-flown : 「飛ぶ」  
fly[flee]-fled-fled : 「逃げる」

- ②hang-hung -hung : 「つるす」「掛ける」  
 hang-hanged-hanged : 「絞首刑にする」
- ③lie-lay -lain : 「横たわる」「ある」 (注)現在分詞形は両方ともlying  
 lie-lied-lied : 「嘘をつく」
- ④shine-shone -shone : 「輝く」「照る」  
 shine-shined-shined : 「みがく」

(4)意味の違いや自動詞、他動詞の区別が狙われるもの。

- ①sit : 「座る」 [自]  
 seat : 「座らせる」 [他+0(名)]  
 會したがって、seatを使って「座る」とするためには、seat oneself[又はbe seated]としなくてはならない。  
 (ex) He sat down on the sofa. 彼はソファに座った  
 =He seated himself on the sofa.  
 =He was seated on the sofa.

- ②lie-lay -lain-lying : 「横たわる」「ある」[自]  
 (ex) lie in the sofa ソファに横になる  
 lie motionless 動かないままにいる ㊦lie C(形・分):「Cのままでいる」  
 ㊦lieは自動詞なので、後ろに目的語をとらない。なお直後に形容詞・分詞をC(補語)としてとって「Cのままでいる」という語法もある。

- lay-laid-laid-laying: 「横たえる」「卵を生む」[他+0(名)]  
 (ex) lay the bat バットを横たえる  
 lay eggs 卵を生む  
 ㊦layは他動詞なので、後ろに目的語になれる名詞を必要とする。また、layを使って「横たわる」とするためには、lay oneself [又はbe laid]としなくてはならない。

- lie-lied-lied-lying : 「ウソをつく」 [自]  
 ㊦このlieも自動詞。「lie to A(人):Aにウソをつく」という形になることが多い。

- ③rise -rose -risen : 「上がる」 [自]  
 raise-raised-raised : 「上げる」「育てる」[他+0(名)]

- ④carry : 「運ぶ」  
 bring : 「持って 連れて)くる」  
 take : 「持って 連れて)行く」  
 fetch : 「行って取って 連れて)来る」



⑤remember: 「思い出す、覚えている」 =recollect, recall  
remind : 「思い出させる」

remind A(人) { : 「Aに思い出させる、気付かせる」  
of B(物事) : 「AにBを思い出させる」  
that S+V~ : 「Aに~を思い出させる」  
to do[原形]~ : 「Aを注意して~させる」 ☞ 特にto do[原形]~の部分は、「未来(これから先)」の内容になる。

☞ remindは必ず「人間」を目的語にとるのに対し、rememberは必ず主語に「人間」をとる。このように必ず主語に「人間」をとる動詞は、persuade「説得する」やforget「忘れる」等、言葉や思考、知覚に関する動詞である。

(ex) I'll always remember your kindness. ご親切はいつまでも忘れません  
That reminds me. そうそうそれで思い出した  
The photo reminded him of my happy childhood.  
その写真は彼に楽しかった子供のころを思い出させた  
My wife reminded me that I must write to him.  
妻は私に彼に便りを出すようにと注意してくれた  
The photo reminded me to write to my friend.  
その写真を見て友人に便りを出すことを思い出した

⑥surprise A(人): 「Aを驚かす」 [他+0(名)] =amaze, astonish, alarm, startle  
marvel at A(物事): 「Aに驚く」 [自] =wonder

(ex) I was surprised at the news. ☞ surpriseは「驚く」という意味  
私はその知らせに驚いた で使う場合には受け身にする必要がある。  
=I marveled at the news.

⑦put on A: 「Aを着る」 (「着る」という一回の動作、行為を表す)  
wear A : 「Aを着ている」 (「着ている」という状態を表す。一時的に身につけてるという意味ではbe wearingでも可)

⑧insist on A : 「Aを主張する」  
persist in A: 「Aに固執(執着)する」

⑨wake-woke-waken: 1.[自動詞として]起きる、目が覚める  
2.[他動詞として]~の目を覚ます、起こす

awake: 1.[形容詞として]起きている、目が覚めている

(ex) He lay awake for a long while.

彼は長いこと目を覚まして横になっていた

2.[主に自動詞として]起きる、目が覚める awake-awoke-awoken

awaken-awakened-awakened: [主に他動詞として] [人]に(…を)気付かせる  
自覚させる

(ex) The affair awakened him to a sense of his position.  
その問題は、彼に自分の地位の重大さを悟らせた

## ⑩doubtとsuspect

### 1.doubt

①doubt は don't think(「～でないと思う」)と同じ。

したがって don't doubt は think(「～だと思う」)と同じ。

### 2.suspect

①suspect は think(「～だと思う」)と同じ。

したがって don't suspect は don't think(「～でないと思う」)と同じ。

(a) 「彼は自分がだまされたのではないかと疑った」

He ( ) that he had been deceived. deceive A:「Aをだます」

(b) 「彼が明日ここに来るのは疑わしいものだ」

I ( ) that he will come here tomorrow.

正解:(a)suspected (b)doubt

## レクチャー6

自動詞と他動詞で意味が変化するもの。

(1)[自]yield to A(名): 「Aに屈する」 =surrender to A, submit to A

(ex) They'll never yield to force. 彼らは決して暴力に屈しないだろう

[他]yield O(名) : 「Oを生み出す」 =produce O(名)

(ex) His new business yields big profits. ①他動詞のyieldには「～を明け渡す」という意味もある。  
彼の新しい仕事は相当利益を上げている

(2)[自]submit to A(名): 「Aに屈する」「Aに従う」

(ex) The player submitted to the umpire's decision.

その選手は審判の判定に従った

[他]submit O(名) : 「Oを提出する」 =hand in A(名), turn in A(名)

(ex) I submitted the paper to my teacher yesterday.

昨日先生にレポートを提出した ①他動詞のsubmitには「～に従わせる」という意味もある。

- (3)[自]allow for A(名) : 「Aを考慮する」 =consider A(名), take A(名) into account  
 (ex) We must allow for some delay. 多少の遅れを考慮することが必要だ
- [他]allow O(名) to do[原形]~: 「Oが~するのを許す」 =let O do[原形]~  
 (ex) This money will allow me to buy a car.  
 このお金のおかげで車を買えます
- (4)[自]attend to A(名) :①「A (仕事) に専念する」  
 ②「A (話) を注意して聞く」  
 ③「A (人) の世話をする」  
 (ex) Attend to your studies. 勉強に精を出しなさい  
 Let's attend to his speech. 彼の話に注意して聞こう  
 Who is attending to this sick person?  
 誰がこの病人の世話をしているのですか
- [他]attend O(名) :①「Oに出席する」  
 ②「O (人) の世話をする」  
 (ex) He attend a lecture 彼は講義に出席した  
 She attended the patient. 彼女はその病人の世話をした
- (5)[自]run :①「走る」②「流れる」  
 ③[run C(形・分)] 「Cになる」  
 ④「(性格などが)遺伝する、伝わる」  
 (ex) The river ran dry. 川の水が干上がった  
 Drinking water is running short. 飲料水は不足しかかっている  
 A: She has quite a temper. 彼女はとっても気が短いね  
 B: Sure, it runs in her family. そうです。親ゆずりです
- [他]run O(名) :①「Oを経営する」 =manage O(名)  
 ②[run a riskで] 「危険を冒す」  
 (ex) He runs a record shop. 彼はレコード店を経営している
- (6)[自]stand :①「立っている」②「いる、ある」③「支持する」  
 (ex) The castle stands on the hill. その城は丘の上にある  
 The door stood open. 戸は開いていた  
 I stand for free trade. 私は自由貿易を支持する
- [他]stand O(名) :①「Oを我慢する、耐える」②「Oに抵抗する」  
 (ex) I cannot stand hot weather. 私には暑さは耐えられない

(7)[自]associate with A(名) : 「Aと交流する、交際する、提携する」

(ex) Don't associate with dishonest people.

不正直な人たちとは交際するな

[他]associate A(名) with B(名) : 「AをBと結びつけて考える、関連させる」

(ex) We associate the name of Einstein with the theory of relativity.

我々はアインシュタインと言えば相対性理論を連想する

We associated him with us in the attempt.

我々は彼をその企ての仲間に入れた

(8)[自]prove (to be) C(形・分・名) : 「Cだと判る、判明する」

(ex) The new machine proved (to be) useless.

新しい機械は役に立たないことがわかった

[他]prove O(名) : 「Oを証明する」

(ex) How can you prove the truth of what he says?

彼の言葉が本当だということをどうして証明できるのか

(9)[自]turn out (to be) C(形・分・名) : 「Cだと判る、判明する」

(ex) What they said turned out (to be) true.

彼らがいっていることはうそではないことが判明した

[他]turn out O(名) : 「Oを生み出す、生産する」 =produce O(名)

(ex) This university has turned out competent technician.

この大学は有能な技術者を世に送り出してきた

(10)[自]become C(形・分・名) : 「Cになる」

(ex) My son became a teacher. 息子は教師になった

[他]become O(名) : 「Oに似合う、似付かわしい」 =suit O(名)

(ex) Such behavior doesn't become you.

そのような振る舞いは君には似合わない

(11)[自]pay : 「割に合う(得になる)」

(ex) War doesn't pay. 戦争は(勝っても負けても)割に合わない

[他]pay A(名) for B(名) : 「A(金額)をB(人)に支払う」

(ex) I paid 100 dollars for him. 彼に100ドル支払った

(12)[自]answer for A(名) : 「Aの責任をとる」

(ex) Parents must answer for their children's conduct.

親は子供の行動に責任を持たねばならない

[他]answer O(名) : 「Oに答える」

(ex) He answered the problem. 彼はその問題に答えた

(13)[自]add to A(名) : 「Aを増す」 =increase O(名)

(ex) This will surely add to your appetite.

これできっと食欲が増しますよ

[他]add A(名) to B(名) : 「AをBに加える」

(ex) He added a little sugar and milk to his tea.

彼は紅茶に砂糖とミルクを少し加えた

(14)[自]enter into A(抽象的なこと・活動): 「Aに取りかかる、加わる、参加する」

(ex) enter into conversation with him 彼と会話を始める

enter into a contract with the firm その会社と契約を結ぶ

[他]enter A(場所) : 「Aに入る」

(ex) He entered the room by the back door. 彼は裏口から部屋に入った

Ⓢ He enter into the room とは言わない。「レクチャー2」を参照せよ。

## レクチャー7

### 使役動詞のまとめ。

(1)make と let。

①  $\text{make} + \text{O} + \text{do}[\text{原形}] \sim$  「Oに(強制的に)～させる」 =force O  $\text{to do}[\text{原形}] \sim$   
C C

(ex) I made my son clean the room. 私は息子に部屋の掃除をさせた  
O C[原形]

Ⓢただし、主語が「物事」の場合には「強制」の意味はない。

(ex) Her words made me get angry. 彼女の言葉を聞いて腹が立った

Ⓢなお、make にはCに「名詞」「形容詞」等をとって「OをCにする」という用法もある。

(ex) His father made him a baseball player. 彼の父は彼を野球選手にした

O C(名)

I will make you happy. 僕は君を幸せにするよ

O C(形)

④また「make+oneself+過去分詞」で「自分自身を～してもらう」も、受験で頻出。 O C

Cに入る過去分詞では、以下の3つが頻出。

- ・make oneself understood 「自分のことを理解してもらう」
- ・make oneself heard 「自分のことを聞いてもらう」
- ・make oneself known to A(人) 「Aに自己紹介をする」

(ex) I couldn't make myself understood in English.

私は英語で自分自身(の考え)を理解してもらうことができなかった  
→ 英語で用が足せなかった

I couldn't make myself heard because the students were so noisy.

私は自分自身の声を聞いてもらえなかった(自分の声が届かなかった)。  
というのは生徒があまりに騒々しかったからだ

② let+O+do[原形]~ 「Oに(許可して)~させる」 =allow+O+to do[原形]~  
C C

(ex) My parents finally let me study abroad.

ついに両親は私が留学するのを許してくれた

=My parents finally allowed me to study abroad.

④letはCに原形をとる が、allowはCにto不定詞を取る点に注意せよ!

(2)have と get。

① have+O+  $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{do[原形]} \sim}{C} \text{ 「Oに} \sim \text{させる (してもらう) 」} \\ \frac{\text{p p}}{C} \text{ 「Oを} \sim \text{される (してもらう) 」 (注)p.p.=過去分詞のこと。} \end{array} \right.$   
※使役のhaveには「have+C+doing~」で「Oに~(自由に)させておく」という用法もある。  
have+C+p.p.の場合、「(自分が)Oを~してしまう」という意味になることもある。

② get+O+  $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{to do[原形]} \sim}{C} \text{ 「Oに} \sim \text{させる (してもらう) 」} \\ \frac{\text{p p}}{C} \text{ 「Oを} \sim \text{される (してもらう) 」} \end{array} \right.$   
※get+O+p.p.の場合、「(自分が)Oを~してしまう」という意味になることもある。

④Cに何を入れるかは、OとCの意味関係で決まる。つまりOとCが能動(「O

はCする」)の意味関係なら、Cにはhaveであれば「原形(又は～ing)」、getであれば、「to不定詞」が入る。逆に、OとCの関係が受身(「OはCされる」)の意味関係になる場合は、haveもgetも 過去分詞をCに取る。

《Cの見極め方》

- |                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| O : C = 能動(「OはCする」)  | ☞ | C = ①動詞がhaveなら「原形(又は～ing)」<br>②動詞がgetなら「to不定詞」。 |
| O : C = 受身(「OはCされる」) | ☞ | C = 過去分詞  |

《演習》空欄中で、正しい形となるものを選び。

- I had my house (paint/ painted/ to paint) green.
- I had my son (carry/ to carry / carried) the baggage for me.
- I had my son (kill/ killed/ to kill) in the war.
- I got my husband (give/ to give/ given) up smoking.
- I got the photo (take/ to take/ taken) by my friend.
- I wcn't have ycu (saying/ say/ said/ to say) such things about my son.

【解答】 1.painted 2.carry 3.killed 4.to give 5.taken 6.saying

【角解説】 1.角解説 1.「O」と「C」である「私の家」と「paint(ペンキで塗る)」の関係は受身(家は人によって塗られるもの)。

《訳》「私は家を緑色に塗ってもらった」

2.「O」と「C」である「私の息子」と「carry(運ぶ)」の関係は能動(息子が運ぶ)。

《訳》「私は息子に荷物を運ばせた」

3.「O」と「C」である「私の息子」と「kill(殺す)」の関係は受身(息子は殺された)。

《訳》「私は息子を戦争で亡くした」

4.「O」と「C」である「私の夫」と「やめる」の関係は能動(夫がたばこをやめる)。

《訳》「私は夫にたばこをやめさせた」

5.「O」と「C」である「写真」と「撮る」の関係は受身(写真は人によって撮られるもの)。

《訳》「私友人に写真を撮ってもらった」

6.「O」と「C」である「あなた」と「言う」の関係は能動(あなたが言う)だが、この場合のように「Oに～させておく(するままにさせておく)」という意味になる場合には「C」には「現在分詞(doing)」が入る。

《訳》「君なんか息子のことをそんなふうには言わせてはおかないぞ」

☞getも「C」に「現在分詞(doing)」をとることがあるが、違いは「to do[原形]～」の場合は、「努力して～させる」というニュアンスになる。get+O+doing～の場合、そのようなニュアンスはない。



(ex) I got the car starting. ☞「努力して～させる」というニュアンスはない。  
私は車を発進させた

## レクチャー8

後ろの形で意味が見えてくる動詞のパターン。

### (1) 「動詞 + A with B」型。

ある動詞の後に「A with B」という形が続く場合、その動詞の意味は2つに分類することができます。それは、

①「AにBを与える」

②「AをBと結びつける」

の2つです。以下にその例を挙げてみましょう。

#### ①「AにBを与える」型 A ⇐ B

provide A with B 「AにBを与える」

☞提供[provide[supply]]は、AとBがひっくり返ると[provide B for A]と、前置詞がforになり、これもよく狙われる。

(ex) We provided them **with** food.

私たちは彼らに食料を与えた

=We provided food **for** them.

furnish A with B 「AにBを与える」

supply A with B 「AにBを与える」

entrust A with B 「AにBをゆだねる」

feed A with B 「AにB（食物）を与える」

impress A with B 「AにBを印象づける」

present A with B 「AにBを贈る」

trust A with B 「AにBを預ける」

#### ②「AをBと結びつける」型 A ⇨ B

combine A with B 「AをBと結びつける」

associate A with B 「AをBと結びつける、関連させる」

mix A with B 「AをBと混ぜる」

identify A with B 「AをBと同一視する」

concern A with B 「AをBと関係させる」

もちろん下の英文のように、形は「動詞 + A with B」型でも、上のルールに当

てはまらないようなものもあるので注意が必要です。

(ex) He struck a ball with a bat. ☞このwithは、単に「〜で(もって)」という「手段」を表しているだけ。

彼はバットでボールを打った

I visited the town with my wife. ☞このwithは、単に「〜と一緒に」という「同伴」を表しているだけ。

私は妻とその町を訪れた

## (2) 「動詞 + A for B」型。

ある動詞の後に「A for B」という形が続く場合、その動詞の意味は2つに分類することができます。それは、

①[A for B のforが「理由のfor」だった場合] → 「賞罰」を表す動詞がくることが多い

②[A for B のforが「イコールのfor」だった場合] → 「交換する」「みなす」型が多い

の2つです。以下にその例を挙げてみましょう。

### ①「Bの理由でAを誉める、叱る、非難する、罰する等」、つまり「賞罰」型

blame A for B	「Bの理由でAを非難する」
condemn A for B	「Bの理由でAを非難する」
censure A for B	「Bの理由でAを非難する」
criticize A for B	「Bの理由でAを批判する」
punish A for B	「Bの理由でAを罰する」
praise A for B	「Bの理由でAを誉める」
admire A for B	「Bの理由でAを賞賛する」
thank A for B	「Bの理由でAに感謝する」
scold A for B	「Bの理由でAを叱る」

### ②「AをBと交換する／みなす」、つまり「A=B」型

exchange A for B	「AをBと交換する」
substitute A for B	「AをBの代わりに用いる」
buy A for B	「A(物)をB(金額)で買う」
sell A for B	「A(物)をB(金額)で売る」
pay A for B	「A(金額)をB(物)に支払う」
take A for B	「AをBとみなす」
mistake A for B	「AをBと間違える」

## (3) 「動詞 + A of B」型。

ある動詞の後に「A of B」という形がつづく場合、その動詞の意味は3つに分類

することができます。それは、

- ①「A(人)からBを取り去る(取り除く)」
- ②「B(人)にAを求める」
- ③「A(人)にB(情報・考え・記憶・警告等)を与える」

の3つです。以下にその例を挙げてみましょう。

- ①「A(人)からBを取り去る(取り除く)」  $A \Leftarrow B$ 

rob A of B	「AからB(金品)を奪う」
deprive A of B	「AからB(物・地位・能力等)を奪う」
clear A of B	「AからB(邪魔なもの)を取り除く」
cure A of B	「AからB(病気)を取り除く(治療する)」
empty A of B	「AからBを出す(空にする)」
relieve A of B	「AからB(不安など)を取り除く」
rid A of B	「AからB(障害物・負担・苦痛など)を取り除く」
strip A of B	「AからB(物・財産・権利など)を奪う、取り除く」
  
- ②「B(人)にAを求める」型  $A \rightarrow B$ 

ask A of B	「BにAを尋ねる」
beg A of B	「BにAを懇願する」
demand A of B	「BにAを要求する」
expect A of B	「BにAを期待する」
require A of B	「BにAを要求する」
  
- ③「A(人)にB(情報・考え・記憶・警告等)を与える」型  $A \rightarrow B$ 

inform A of B	「AにB(情報)を与える」
convince A of B	「AにB(考え)を確信させる」
persuade A of B	「AにB(考え)を納得させる[説得する]」
remind A of B	「AにB(記憶)を思い出させる」
warn A of B	「AにB(警告)を与える」

#### (4)「動詞 + A from B」型。

ある動詞の後に「A from B」という形がつづく場合、「Aが(を)Bから離れる(離す・別れる)方向に仕向ける」がその意味の基本です。具体的には以下の3つに分類することができます。それは、

①「動詞 + A + from doing~」「Aが~しない[できない]ようにする」

①これは、「Sが原因となって結果としてOは~しない/できない」と訳してもいい。

②「AとBを区別する」

③「BからAを得る」

の3つです。以下にその例を挙げてみましょう。

①「Aが~しない[できない]ようにする」型 A⇔B

prevent A from doing~	「Aが~することを妨げる」
keep A from doing~	「Aが~することを妨げる」
stop A from doing~	「Aが~することを妨げる」
hinder A from doing~	「Aが~することを妨げる」
prohibit A from doing~	「Aが~することを禁止する」
discourage A from doing~	「Aが~することを思い止まらせる」

②「AとBを区別する」型 A⇔B

distinguish A from B	「AとBを区別する」
tell A from B	「AとBを区別する」
know A from B	「AとBを区別する」
discern A from B	「AとBを区別する」

③「BからAを得る」型 A←B

derive A from B

(5)「動詞 + A on B」型。

ある動詞の後に「A on B」という形がつづく場合、その動詞の意味は以下の通りです。

「AをBに与える(Bの上に置く)」 A⇔B

以下にその例を挙げてみましょう。

confer A on B	「AをBに与える」
place A on B	「AをBに与える」
impose A on B	「AをBに課す」
blame A on B	「AをBのせいにする」
inflict A on B	「AをBに押しつける」

(6) 「動詞 + A into B」型。

ある動詞の後に「A into B」という形がつづく場合、その動詞の意味は2つに分類することができます。それは、

① 「AをBに変える」

② 「AをBの中に入れる」

の2つです。以下にその例を挙げてみましょう。

① 「AをBに変える」型 A↔B

change A into B	「AをBに変える」
turn A into B	「AをBに変える」
convert A into B	「AをBに変える」
divide A into B	「AをBに分割する」
put A into B	「AをBに翻訳する」
translate A into B	「AをBに翻訳する」
transform A into B	「AをBに変化させる」

② 「AをBの中に入れる」型 A↔B

put A into B	「AをBの中に入れる」
infuse A into B	「AをBに吹き込む、注入する」
talk[persuade] A into doing~	「Aを説得して~させる」
↔talk[persuade] A out of doing~	「Aを説得して~させない」

(7) 「動詞 + A to B」型。

ある動詞の後の「A to B」は、「A→B(つまり「AをBに」)」と考えて下さい。そして「A to B」を後ろにとる動詞の意味は、以下の3つに分類することができます。

① 「AをBに与える(伝える、加える)」「AはBのせいだと考える」

② 「AをBに連れてゆく(くる)、もたらす」「AをBに合わせる」

③ 「AをB(状態・性質)に変える(にする)」

このうち「与える」型が一番多く、その次が「連れてゆく」型です。以下にその例を挙げてみましょう。

① 「AをBに与える」A↔B

「A(責任・過失等)をBのせいにする(せいだと考える)」	
give A to B	「AをBに与える」
add A to B	「AをBに加える」
do A to B	「A(益・害)をB(人)に与える」
attach A to B	「AをBに付け加える、張り付ける」
attribute A to B	「AをBのせいにする」
ascribe A to B	「AをBのせいにする」

② 「AをBに連れていく(くる)、もたらす」 A↔B

take A to B	「AをBに連れていく」
bring A to B	「AをBに連れてくる」

③ 「Bの状態にする(変える)」 A↔B

reduce A to B	「AをBに減らす」 「AをBに変える(まとめる)」
change A to B	「AをBに変える」

(8) 「動詞 + A as B」型。

ある動詞の後に「A as B」という形がつづき、その部分に「A=B」の関係が成り立つ場合、その動詞の意味は以下の通りです。

「『AはBだ(A=Bだ)』とみなす(思う)／言う」 A=B

④ 「みなす(思う)」型の方が多い。

以下にその例を挙げてみましょう。

regard A as B	「AはBだとみなす」	describe A as B	「AをBだと言う」
look on A as B	「AはBだとみなす」	define A as B	「AをBと定義する」
see[view] A as B	「AはBだとみなす」	refer to A as B	「AをBと呼ぶ」
think of A as B	「AはBだ思う」		(言う)
speak of A as B	「AはBだと言う」		

もちろんごくたまに「A=B」が成り立っても「みなす(思う)／言う」型にならないものもあります。それはたとえば以下のように主語が「物(事)」の場合です。

(ex) Moderate exercise brings health as its reward[報酬].

適度な運動は健康をその報酬としてもたらしてくれる

以下は、字面的には「見なす」ではありませんが、「AをBとみなす」結果として「使う」「扱う」わけで、その応用形といえるでしょう。

(ex) The boys used the stick as a bat. 少年たちはその棒をバットとして用いた  
They treated me as a child. 彼らは私を子供として扱った

## レクチャー9

### 意外な意味になる動詞。

- (1)last: (時間的に)続く、持続する      ⑥自動詞(他動詞の用法もあるが少ない)  
(人・健康・力などが)持ちこたえる、衰えない  
(物が)(ある時間)長持ちする、足りる、間に合う  
(ex) Our meeting lasted until four. 会合は4時まで続いた  
How long will he last? 彼はあとどのくらいもつだろう  
How long will our food last? 我々の食物はどれくらいもつだろうか
- (2)long: (...を)熱望する、(...に)あこがれる      ⑥自動詞、他動詞両方あり  
(ex) We long for peace. 私たちは平和を熱望している  
He longed to meet her. 彼は彼女にとっても会いたかった
- (3)face: (敵・困難等に)直面する、立ち向かう      ⑥他動詞  
(ex) We faced difficulties. 我々は困難に敢然と立ち向かった
- (4)pay: 割に合う      ⑥自動詞  
(ex) Honesty sometimes doesn't pay. 正直は時として割に合わない
- (5)work: ①[機械・器官などが]動く、作動する、機能する      ⑥自動詞  
(ex) This clock works by electricity. この時計は電気で動く  
②[計画・方法などが]うまくいく  
(ex) Your plan will work well. 君の計画はうまくいくでしょう  
③[薬・力などが]効く、効果がある  
(ex) This medicine works like magic.  
この薬は不思議なほどよく効く
- (6)share: ~を一緒に使う      ⑥他動詞  
(ex) I shared her taxi as far as my office.  
会社まで彼女の乗ったタクシーに便乗させてもらった



(7)matter: 重要だ

☞自動詞

(ex) It doesn't matter whether he will come or not.

彼が来るかどうかは重要ではない

(8)meet O(必要・要求): Oを満たす、Oに応える ☞他動詞

(ex) I met his demands. 私は彼の要求に応じた

(9)run O(店・会社など): Oを経営する ☞他動詞

(ex) He runs a hotel. 彼はホテルを経営している

☞runは、上記以外にrunを用いたイディオムが超頻出!

①run for A: Aに立候補する

②run out of A: Aが切れる、使い果たす

run short of A: Aが不足する

③run a risk: 危険を冒す

run the risk of A/doing~ : Aの/~するという危険を冒す

④run (away): 逃げる

⑤run after A: Aを追いかける

⑥run into A: Aに遭遇する、出くわす

=run across A

=come across A

=encounter A

=meet A by chance

⑦run over A(人等): (車が)Aをはねる、ひく

(10)sell: (ある価格で)売られている、売れ行きが良い(悪い) ☞自動詞

(ex) His new book is selling well[badly].

彼の新しい本は売れ行きがいい[悪い]

☞sellのように能動態でも受身的な意味を表す動詞として、cut「切れる」、handle「扱われる」などがある。

(ex) This knife cuts well. このナイフはよく切れる

The car handles poorly. その車は運転しにくい

(11)become O(人): Oにふさわしい、似合う ☞他動詞。Sには「服・言動」がくる。

(ex) This hat becomes you. この帽子はよくお似合いになりますよ

(12)miss O(人): O(人)がいないのを寂しく思う ☞他動詞

(13) cover O(範囲・問題など): Oを扱う、カバーする、占める 他動詞

(ex) This dictionary covers all common words.

この辞書は日常語はすべて採録してある

(14) fail O(人): (いざというときに)Oの役に立たない、失望させる 他動詞

Oを見捨てる

(ex) His courage failed him. (いよいよという時に)彼は勇気が出なかった

Words failed me. 私は言葉に詰まった

Her sight failed her. 彼女は視力を失った

(15) survive O(人): Oより長生きする 他動詞

(ex) She survived her husband by ten years.

彼女は夫よりも10年長生きした

會もちろんsurviveには「生き残る(延びる)、存続する」(これは自動詞)。

「～を生き延びる」(これは他動詞)のような意味もある。

(ex) The custom has survived into the twentieth century.

その習慣は20世紀まで続いている

(16) make C(人・物): Cになる = become C(人・物)

make O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> : O<sub>1</sub>にとって(の)O<sub>2</sub>になる

(ex) The two will make an ideal couple. 2人は理想的な夫婦になるだろう

This essay makes pleasant reading.

この随筆は楽しい読み物になる[読んで楽しい]

Betty will make Jack a good wife

=Betty will make a good wife for Jack.

ベティーはジャックのいい奥さんになるだろう

## レクチャー10

### 「動詞+名詞」の(決まり文句的)頻出表現。

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1. 「知識を身につける」 | acquire knowledge |
| 2. 「玄関の応対に出る」 | answer the door   |
| 3. 「実を結ぶ」     | bear fruit        |
| 4. 「お湯を沸かす」   | boil (some) water |
| 5. 「火がつく」     | catch[take] fire  |

6. 「風邪をひく」 cf; 「風邪をひいている」	catch (a) cold have a cold
7. 「始発列車に間に合う」 cf; 「最終列車に乗り遅れる」	catch the first train miss the last train
8. 「足を組む」 cf; 「腕を組む」	cross one's legs fold one's arms
9. 「出席をとる」	call the roll
10. 「試験でカンニングする」	cheat in[on] the examination
11. 「せきばらいをする」	clear one's throat
12. 「食卓を片付ける」	clear the table
13. 「罪を犯す」	commit a crime
14. 「自殺する」	commit suicide
15. 「(ある金額が)出費をまかなう」	cover expenses
16. 「見物する」	do[see] the sights
17. 「あいさつをかわす」	exchange greetings
18. 「凧を上げる」	fly a kite
19. 「～の忠告に従う」	follow[take] one's advice
20. 「運動をする」	get[take] exercise
21. 「パーティーを開く」	give[have/ hold/ throw] a party
22. 「講義(講演)をする」	give[deliver/ do] a lecture
23. 「頭が痛い」	have a headache
24. 「のどが痛い」	have a sore throat
25. 「息を殺す」 cf; 「息が切れる」	hold one's breath be out of breath
26. 「黙る」	hold one's tongue
27. 「日記をつける」	keep a diary
28. 「暇をつぶす」	kill time
29. 「卵を産む」	lay an egg
30. 「かっとなる」 (=get angry)	lose one's temper
31. 「(～の)予約をする」 cf; 「(～の)予約を取り消す」	make a reservation (for～) cancel a reservation (for～)
32. 「(～のために)場所をあける」	make room (for～)
33. 「ミスをする」	make mistakes[a mistake]
34. 「お茶(コーヒー)を入れる」	make tea[coffee]
35. 「お金を稼ぐ」	make[earn] money
36. 「生計をたてる」	make[earn] a living
37. 「火を起こす」	make[build] a fire

38. 「演説をする」	make[deliver] a speech
39. 「顔をしかめる」	make[pull] a face
40. 「決心する」	make a decision
41. 「重要である」	make a difference
42. 「意味をなす／筋が通る」	make sense
43. 「進歩する」	make progress
44. 「努力する」	make efforts[a effort]
45. 「要求(必要)を満たす」	meet a demand[need]
46. 「試験にうかる [落ちる] 」	pass[fail] an examination
47. 「医者 [弁護士] を開業する」	practice medicine[law]
48. 「ホテルを経営する」	run a hotel
49. 「危険を冒す」	run[take] a risk
40. 「貯金する」	save money
51. 「医者にかかる」	see[consult] a doctor
52. 「辞書を引く」	see[consult] a dictionary
53. 「食卓の準備をする」	set the table
54. 「(Aと)握手する」	shake hands (with A)
55. 「部屋を共有する」	share a room
56. 「タクシーを相乗りする」	share a taxi
57. 「涙を流す」	shed tears
58. 「肩をすくめる」	shrug one's shoulders
59. 「子供を甘やかしてだめににする」	spoil[indulge] children
60. 「試験を受ける」	take[sit for] an examination
61. 「薬を飲む」	take medicine
	☞drink[have, eat] medicine とは言わない。
62. 「一休みする」	take a rest
63. 「避難する」	take shelter
64. 「交替で～する」	take turns doing～
65. 「措置を講じる」	take measures[steps]
66. 「昼寝する」	take[have] a nap
67. 「時間をかける」	take one's time
68. 「骨を折る、尽力する」	take pains
69. 「電話(トイレ)を借りる」	use a telephone[bathroom]
	☞borrow a telephone[bathroom] とは言わない。
70. 「足元に気をつける」	watch one's step